

## 新入社員紹介

総務部 鳥越 麻美



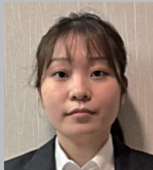
0.5歩先を見て、人生楽しむことを心がけています。よろしくお願致します。

営業部 宮本 祥吾



学生の感覚が抜けていないと思われたい言動を心掛けます。また、若いエネルギーを社内に全体に伝達させていただきます。

工事部 瀧田 瑞希



早く仕事に慣れるように日々頑張りますので、よろしくお願致します。

工事部 鮫島 和輝



何事も全力で頑張りますので、ご指導のほどよろしくお願致します。

## 出産報告

工事部 山崎所長 第二子 彩葉(さよ)ちゃんご誕生!



2023年11月に第二子となる元気な女の子が誕生しました。今後も家族共々よろしくお願致します!

# ～本社周辺の一斉清掃～



当社では、定期的に現場周辺の一斉清掃を行っています。同じく本社でも毎週水曜日に本社周辺の一斉清掃を行っています。長く続けていると、様々な物語も生まれてきます。今号では一斉清掃への社員の思いや、物語、そしてこのような取り組みをなぜ始めたのかについてご紹介したいと思います。

**社員のコメント 鳥越さん**  
私はまだ、入社から浅いのですが、思っていたよりも広範囲で一斉清掃が行われていて、私が参加した時点でほぼ出番のない状態でした。皆さん朝早くから開始されて気持ちがいいです。向かいの旭警察署の方が清掃されているのを見かけました。「地域で良い連鎖だなあ。」と感じ、少し心が温まります。私自身も、「ゴミを拾って運を拾う」



**社員のコメント 山崎所長**  
本社や現場での一斉清掃を通して、周辺の美化に努め、地域の皆さまへ社会貢献が出来るよう努めています。15分程度の清掃ですがみんなが集えば、すぐに拾うゴミが無いはど綺麗になります。これからも清掃活動をやり続け世の中にも少しでも貢献できれば嬉しいなと思います。

**社長のコメント**  
道路掃除を始めて20年にもなるでしょうか。最初は私一人でした。そのうちに二人二人と手伝ってくれるようになり、月に一度は全社員で道路掃除をするようになりました。道路掃除をするとなぜか清々しい気持ちになることができます。その上、ご近所や通りすがりの人から、声をかけてもらえるようになり、声かけも増えて今では毎週水曜日と回数が増え、だんだん曜日にも全員で掃除をするようになっていきます。また、それ



という気持ちで取り組んでいます。清掃を通して心も綺麗になり少し気持ちに余裕が出来るように思います。

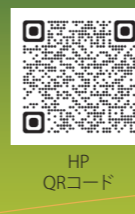
この道路掃除のお陰で、当社の社員でゴミを捨てる人はいなくなりました。誰かが捨てたゴミは誰かが拾わなければ、街中にゴミが散乱し、人の心を荒ませます。道路のゴミは人の自己中心性の表れだとも言えます。その自己中心性を捨てることで、翻って自分の自己中心性にも気付くことになる。これが道徳の始まりであり、当社の風土を育ててきたものの一つだとも思えるのです。



の地域清掃も行うようになりました。最近道路掃除をしても、以前よりもゴミが少なくなり、時々道路を掃除している人も見かけるようになりました。私たちの掃除がきっかけになっているのだとすれば嬉しいことです。

清掃準備中の社長

第27号  
2024年 4月



# MORINAGA PRESS

森長工務店の旬の情報をお届けします。

巻頭メッセージ P.1

協力業者次世代インタビュー P.2

お客様訪問・トピックス P.3  
竣工だより・進行中現場

本社近隣清掃活動 P.4  
新入社員紹介・イベント情報



2023年10月(株)森長工務店・森栄会合同旅行(指宿温泉1泊2日)

# 意義と価値の自覚

同じ仕事をするにしても、そのことの意義とか価値というものをはっきり自覚させられ、教えられていないから、迷ったり不平を持って、やがては現代の社会をのろうようにもなるわけであろう。そこには今日の日本の根本の問題があるのではないかと思う。  
(松下幸之助)

現在の日本の現状を見ると、松下幸之助が抱いた不安が不幸にも的中してしまったような気がします。教育は教えるでと書きますが、「教える」ことよりも「育てる」ことの方がはるかに重要です。「育てる」とは、仕事の場で言えば、仕事の意義や価値を、取り組む姿勢や言葉によって、部下に伝えていくことです。意義や価値が自覚できれば、教えるべき技術やノウハウは本人が自ら主体的自律的に学び始めるのです。

人間が他の動物と違うのは、ものごとに意義や価値を求めるところにあります。意義や価値を求めないのであれば、食べることさえできればいいのですから、犬や猫と何ら変わるところはないとさえ言えるのです。本当の人間になるためには、意義や価値が必要であるし、それが自覚できて初めて人間は主体的自律的に生きることが出来るのです。

しかし、仕事の意義や価値を、伝える側(会社や上司)が深く自覚していなければ、若い人たちに伝えることはありません。自分の仕事に意義や価値を感じられない人が、それを人に伝えられる筈がないの

です。また、意義や価値が自覚されていても、曖昧な自覚であれば、部下には伝わらないし、何より自分自身をその自覚によって律することは出来ません。

この自覚を深めるためには、人にその自覚しているものを語ろうとすることが大切です。語ろうとするから語れるようになるのです。この努力なしには、語るべき言葉を獲得することは出来ません。読書によって曖昧な自覚を明確にする。あるいは対話によって自分が感じているものを明確な言葉にする。そんな中で、自覚が明確になり、人にも語れるようになるのです。

今の若い人たちも仕事の意義や価値を強く求めています。それに答えるためにも、我々育てる側が自覚を深めることが大切なのだと思うのです。



代表取締役 森長 敬

MORINAGA PRESS 第27号 2024年 4月

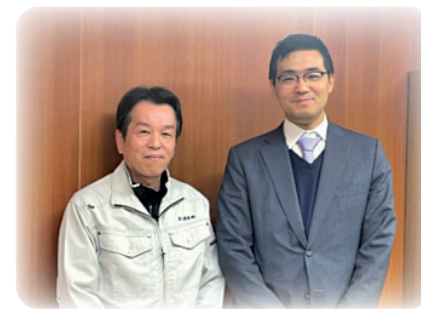
## 編集後記

MORINAGAPRESS第27号編集にあたり、ご協力並びにご支援いただきました皆様へ感謝申し上げます。長い長いコロナ自粛でしたが、昨年後半からようやく行事も復活し10月には森栄会・森長工務店合同忘年会が行われ実に4年ぶりの開催となりました。一方で、社内会議や打ち合わせなどリモートで継続されているものもありますが、ある意味コロナ関係なく今後も定着するようにも感じます。建設業においては、2024年問題ともいわれる働き方改革関連法のひとつ「時間外労働の上限規制」の猶予期間が終了し、2024年4月から規制が適用されます。今までより一層、人材確保や業務効率化などの対応に努めることが大切になると感じています。

(編集担当: 営業部)

株式会社 森長工務店  
〒535-0003  
大阪市旭区中宮1-1-11  
TEL.06-6952-3331  
FAX.06-6953-5631  
www.morinaga-net.co.jp

# 協力会社次世代インタビューVol.4



株式会社東天産業株式会社  
永敷裕二様  
森長 寛 専務

当社の事業において、なくてはならない存在である施工協力会社の若手経営者や後継者の皆さまに、仕事に対する想いや今後の展望をお伺いする次世代インタビュー。  
第四回は、当社の協力会社である「森業会」の役員を務めて頂いている東天産業株式会社様です！  
1975年の設立より事業を永く続けてこられました。当社は主に軽天工事（\*1）で、長きにわたりお世話になっております。  
今回は代表取締役の永敷裕二さんにお話を伺いました。

**森長** 専務以下、森長 それでは自己紹介をお願いします。  
**永敷** 社長以下、永敷 私は今現在五十三歳です。高校を卒業し、しばらく地元のメーカーで働いていました。そこで転勤の辞令が出たのですが、既に結婚が決まっていたので、そのタイミングで退職することになりました。その後別の会社に入社しましたが、結局は妻の実家である東天産業に入社することになりました。入社してからは二十七年ほどになります。

**森長** 実は貴社のお付き合いの始まりが社内でもよく分りません。永敷 私もそもそも経緯は存じ上げません。先代から聞いているのは、取引が途切れている期間が十五年ほどあったそうです。森長さんが材料を支給し、協力会社には施工だけを発注するという時代があったのです。当社は施工だけでは値段が合わなかったため、その時期は疎遠になっていったようですね。  
**森長** そんな経緯があったことを知りませんが、逆十五年経て取引が復活した理由は何でしょうか。  
**永敷** とある小学校の工事が切っ掛けです。廊下の天井に岩綿吸音板（\*2）を、ヘリコプターなどの形に模様張りをする工事があったので。当時その岩綿吸音板を取り扱っているメーカー経由で、当社に施工の依頼が来りました。当社はそうした仕事をよく手掛けていましたので受け負ったところ、発注者が森長さんだったのです。以来三十年近くお付き合いさせていただいています。  
**森長** そうだったんですね。当社の仕事で記憶に残っている現場はありますか。  
**永敷** やはり難しい現場ですね。出来るかな、と思うような現場は大変ですが、一方でやりがいもあり記憶にも残ります。ある化粧品会社さんの本社の現場は、仕事内容自体は難しくなかったのですが、各部屋で天井の高さが違うなど複雑でした。ああいう凝っている現場を森長さんにはもってつけ負ってほしいですね。他にも遠方でやった現場や、人のやりくりで苦労した現場など、苦労したり失敗した現場は印象が強いですよね。



**森長** 当社の仕事ぶりについては何かございませんか。  
**永敷** 総じてまじめな人ばかりですよ。安全大会などでよく社長さんが理念の話をされていますが、それがしっかりと社内浸透しており、社員の方たちの目指しているところが同じだと感じます。他社さんには現場監督同士の仲が良くない会社も多いですから。  
**森長** 貴社の職人さんたちもとても仲が良いですね。私が入社して初めて配属された現場で、積極的に声をかけてくれたのが貴社の職人さんたちでした。また、現場でも互いに声を掛け合いながら楽しそうに仕事を進められていたのが強く記憶に残っています。  
**森長** 最後に今後の展望などを教えてください。  
**永敷** まだ私も五十三歳なので、まだ十数年は働くつもりですが、次の世代のことも考えないといけないと感じています。職人さんのおかげで私も家族もご飯が食べられることは忘れてはいけません。職人さんにも当社があることで仕事ができていると思ってもらえるような会社にならないといけないと思っております。そして現状維持ではなく、楽しく仕事をしたいです。  
**森長** 仰る通りですね。私たちも新しく制定したビジョンでは、楽しく仕事をすることが一つのキーワードになっていきます。それでは本日はありがとうございました。今後とも指導よろしくお願ひいたしました。  
**永敷** こちらこそありがとうございました。

**永敷** 実は軽天工事は分裂が激しいのです。独立心が強い人たちが多い業界です。ゼネコンさんと直接仕事をしている軽天工事業者は三割ほどではないでしょうか。他は同業他社の下請けをする人が多いのです。だから横のつながりが強くなり、簡単に職人さんが移籍してしまったり、それまでの付き合いを基に独立したりしてしまう。そういうことを防ぐために旅行に行ったり、飲み会を開いたり、皆で集まる機会を作ろうと苦心してきました。そうした取り組みが功を奏しているのだとした

\*1 軽天工事 軽量鉄骨材を用いて天井や壁の骨組みを作る工事のこと  
\*2 岩綿吸音板 吸音性があり、主に天井に用いられる岩綿を主原料とする板状の内装材

## 竣工日より

設計者：自社  
完成日：令和6年2月28日  
構造・規模：S造・3階  
施工床面積：790.65㎡

## A技研株式会社本社計画



設計者：株式会社 ジオプランニング  
完成日：令和6年2月14日  
構造・規模：RC造・7階  
施工床面積：2159.90㎡

## estageo関目高殿新築工事



## 進行中現場

- 野里小学校増築その他工事
- 神戸PI住宅耐震改修工事
- 三津屋小学校東校舎棟他増築その他工事
- 赤川住宅1号館建設工事
- (仮称)天満4丁目マンション新築工事
- estageo北田辺新築工事
- S社開発工事
- Y社第三工場改修工事

## 社内イベント情報

- |       |         |       |         |
|-------|---------|-------|---------|
| 4月1日  | 入社式     | 6月29日 | ボウリング大会 |
| 4月29日 | 年次計画発表会 | 7月19日 | 納涼祭     |
| 6月7日  | 安全大会    | 9月2日  | 防災訓練    |

## トピックス

### ~大阪市旭区「城北公園」のお花見紹介~



城北公園は、旧淀川の河川敷を利用して造られ、菖蒲園（有料）で有名ですが桜の木や梅の木も多く、大池をめぐる桜並木の散策路や梅林、遊具の丘などが設けられています。旭区の憩いの公園としてのんびりと過ごす家族連れやグループの姿が見られます。

城北公園通りの西の方から入ると、児童公園と約 150 本の梅林が見えてきます。実はこの梅林は、当社の故・森長堯熙会長が梅の花が好きで、2006 年に会長の故郷徳島県の梅の産地、神山町の梅の木を寄贈してできた梅林になります。公園内には他にも寄贈プレートがあり、たくさんの方が関わって美しく保たれている梅林の梅の香りに癒されます。

今号が皆様のお手元に届く頃には梅林は見頃を過ぎていると思いますが、桜のお花見の季節になりますので、春の足音を感じに季節のお花見に行ってみてはいかがでしょうか。

※2～3月には梅が少し、4月はソメイヨシノが咲き、6月には花しょうぶ（有料）、11～12月にはメタセコイアなどの紅葉がみられます。



※2006年に寄贈された旨の石碑と約150本の梅林

## お客様訪問



片山 晴美 様

思えば長い道程でした。二〇一二年、母の世界による相続で、子供時代から住み慣れた実家を譲り受けた際、真っ先に浮かんだ土地活用は、専門分野でもある音楽への貢献でした。私自身のピアノ修行時代、常に付き纏った練習に関する悩み多い経験から、隣家に気を使うことなく夜中でも音出しのできる住居を作りたい、室内楽発祥の時代にも通じるアットホームなホールやサロンを作りたい、そんな思いで、実家跡の土地に音楽マンションを計画しました。ところがビジネスと夢が半々のこのようなプロジェクトを限られた予算や面積に実現させることには、当初の予想を遥かに超える難題が多くなり、某設計事務所さんを最初に訪れた二〇一六年から完成までには実に七年の歳月を要することになりました。途上、次から次へと波乱が勃発し、その後も相談依頼をした建築会社さん数社に設計の相談を行いました。このように特殊な建築には対処できず、困り果てていた時に出会ったのが森長工務店さんです。森長工務店さんにはこれまでの経緯や設計に関する希望を詳しくお話しし、このような難物にも対処していただけるかどうかを契約前にご相談しました。営業担当の方は時間をかけて辛抱強く私の話を傾けてくださり、特に思い入れの強かった設計に関しては入念に打ち合わせを重ねました。「設計ありき」に次いで、これを予算内に収めるための方策に関しても、親身に取り組んでい

ただきました。工事が始まってからも時には夜遅くまでの打ち合わせにもなり、コロナ禍の最中での苦勞にも関わらず、一丸となって頑張っていたいただきました。現場監督さん、営業担当者さん、設計士さんをはじめ、工事の進行を左右する重要な関係者の優れた能力やお人柄に恵まれて、ようやく二〇二三年二月にVila Musica（ヴァイラ・ムジカ）は陽の目を見ることができました。アフターサービスも行き届き、完成後のご相談にも快く応じていただけるとの心から感謝しております。私は幾多の挫折を経た産物ゆえに、多数の建築会社や設計事務所と交渉を重ねましたが、森長工務店さんに出会ったお陰でこのような特殊で難解な建物が実現したことを、これから建築を計画される施主の皆様にも広くお伝えしたいと思っております。Vila Musicaは地域の新しい音楽文化の発祥を目指して、末長く皆様に愛される建築物であり続けたい所存です。

